

令和5年度 浜松市教育研究会 数学科研究部  
第1回研修会

発言時以外はミュートの設定にしてください。

- 1 リモート準備
- 2 全体会 15:00～15:10

(1) はじめの言葉

(2) 顧問校長あいさつ



《分散会場の様子》

(3) 研究主題について

〈主 題〉

新しい時代に必要となる資質・能力を育む算数・数学教育  
—キャリア教育の視点から主体的・対話的で深い学びの実現を目指して—

〈重 点〉

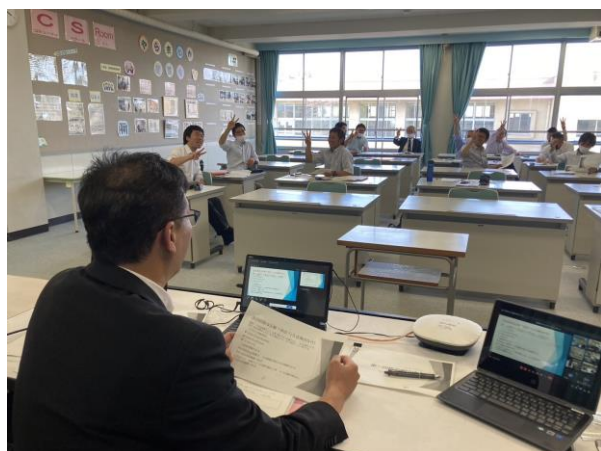
- ①キャリア教育の視点から「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の育成
- ②何を知っているか、何ができるかという「知識・技能」の習得
- ③知っていること・できることをどう使うかという「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ④どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかという「学びに向かう力・人間性等」の涵養
- ⑤「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現

〈テーマ設定の理由〉

文部科学省（2015）は教育課程企画特別部会における論点整理において、「学習指導要領改訂の視点」を『新しい時代に必要となる資質・能力の育成』、『育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し』、『アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善』からなる『育成すべき資質・能力を育む観点からの学習評価の充実』と示した。小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント（文部科学省、2017）において、改訂の基本的な考え方を『教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成』、『知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成』などであることを示した。新学習指導要領が示す「新しい時代に必要となる資質・能力」を算数・数学教育において育成していく必要がある。

第3次浜松市教育総合計画（2015）において、キャリア教育充実のための施策が示されている。生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な力を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくため、キャリア教育の視点から実践していくことが必要である。

本年度の数学科研究部としては、研究の重点③知っていること・できることをどう使うかという「思考力・判断力・表現力等」の育成に力を注いでいきたい。今一度この力がついていけば新しい時代の中で適応していくことができると改めて捉え直し、今後の数学教育をする上で意識していきたい。



《講話の様子》



《グループワークの様子》

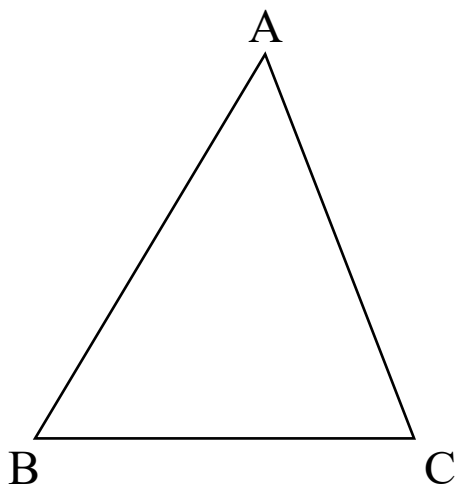
3 講話 15:10~16:00

主題「数学的な資質・能力を育成するための評価問題と授業」

講師 浜松市立佐鳴台中学校長 守屋 謙一郎 先生

メモ

① 角度問題



② 確率問題

③ 数の説明問題

説明)  $n$ を自然数として、四角で囲んだ4つの数のうち、左上の数を  $n$  とすると、右上の数は  $n + 1$ 、左下の数は  $n + 5$ 、右下の数は  $n + 6$  と表される。

これら4つの数の和は、  
 $n + (n + 1) + (n + 5) + (n + 6)$   
=

#### 4 連絡事項

##### (1) 第2回研修会

日 時	研修内容	会 場
8月1日(火) 午前9時30分  運営委員 午前8時30分 集合	全体会(9時30分) 顧問校長あいさつ 部長あいさつ 日程確認	教育会館
	講話(9時40分) 大会議室 講師 横浜国立大学 池田敏和教授	
	分科会(11時00分) 研究発表  研究協議 指導講評	
	解散(12時00分)	

##### (2) 第3回研修会

日 時	研修内容	会 場
10月25日(水) 午後2時00分 運営委員 午後1時00分 集合	研究授業(午後2時00分) 各校  分科会(午後3時00分) 研究協議	市内4校

##### (3) 第78回関東甲信静数学教育研究神奈川大会

日 時	研修内容	会 場
11月2日(木)	発表者：引佐南部中教諭 「生徒の効力予期を高める授業を目指して」	栄公会堂 横浜市立日野南中 学校

##### (4) 西部数学サークルについて

##### (5) 研修のまとめについて

定期テストの「思考・判断・表現」を問う問題を各学校で集約して提出  
(各校A4で1枚) ※本年度は数と式の単元。

ここまでがリモート

・ 5 グループ協議 (各会場) 16:05~16:15

(1) 各グループで本日学んだ内容についての感想を出し合う(5分)

※ICTの使い方のことでも、守屋先生の講話の内容についてでも良い。

メモ

--

(2) 各グループ発表(各グループ1分程度)

(3) 指導講評(各会場の校長先生または教頭先生)

(4) 終わりの言葉(各会場の副運営委員)